

国際医療福祉大学大学院

保健・医療・福祉専門職のキャリアアップを支援

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい本学大学院の特長

全国7都市（栃木県大田原市・千葉県成田市・東京都港区・神奈川県小田原市・静岡県熱海市・福岡県福岡市・福岡県大川市）にキャンパスを展開する国際医療福祉大学大学院は、平日の夕方以降や土日祝日に授業を集約したカリキュラムとさまざまなICT教育ツールにより、全国の社会人の学びを支援しています。



ICT 教育ツール

- 自宅など、どこからでも手軽に授業や研究指導を受けられる、Webコミュニケーションツール
- 通勤・休憩時間など、いつでもどこでも自分の都合に合わせて学修できる、eラーニングシステム
- 多数のコンテンツで保健・医療・福祉を幅広く学べる、VODライブラリー

医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 特定行為看護師養成分野（旧：ナースプラクティショナー養成分野）
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野
- 臨床検査学分野
- 災害医療分野
- 遺伝カウンセリング分野
- 医療機器イノベーション分野
- 医療福祉経営専攻**
- 医療経営管理分野
- 診療情報アナリスト養成分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療通訳・国際医療マネジメント分野
- 臨床心理学専攻**

博士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野
- 臨床検査学分野
- 災害医療分野
- 医療遺伝学分野
- 医療福祉経営学分野
- 診療情報管理・分析学分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 臨床心理学分野

薬学研究科

博士課程（4年制）

医療・生命薬学専攻

薬科学研究科

修士課程（2年制）

生命薬科学専攻

- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

医学研究科

博士課程

医学専攻

- 基礎医学研究分野
- 臨床医学研究分野
- 社会医学研究分野

専門職学位課程

公衆衛生学専攻

- 国際保健・感染症学分野
- 疫学・社会予防医学分野
- 医療福祉政策・管理学分野

大学院に関するお問い合わせ

東京赤坂キャンパス事務部 Tel：03-5574-3900 〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26

学生募集要項は次のいずれかの方法でご請求ください

Tel 03-5574-3903 E-mail daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp HP <https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>

国際医療福祉大学

- 大田原キャンパス
- 成田キャンパス
- 東京赤坂キャンパス
- 小田原キャンパス
- 大川キャンパス

国際医療福祉大学附属病院

- 国際医療福祉大学病院（栃木県）
- 国際医療福祉大学塩谷病院（栃木県）
- 国際医療福祉大学成田病院（千葉県）
- 国際医療福祉大学市川病院（千葉県）
- 国際医療福祉大学三田病院（東京都）
- 国際医療福祉大学熱海病院（静岡県）

国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

GUIDEBOOK

先進的ケア・ネットワーク 開発研究分野

修士課程 医療福祉経営専攻

■ 介護福祉・ケアマネジメント学領域

■ 自立支援介護学領域

■ 自立支援実践ケアマネジメント学領域

博士課程 保健医療学専攻

■ 介護福祉学領域

■ ケアマネジメント学領域



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ごあいさつ



分野責任者
石山 麗子 教授

わが分野は広くケアとネットワークに関して「先進的な開発」を行っていこうという分野で、すでに「排泄自立」「要介護5の方の歩行」「認知症のケア」さらに「胃ろうから常食へ」などの研究から目ざましい成果をあげている分野です。地域共生社会に対応するケアマネジメントを含め広くケア・介護に関する教育研究機関としてはもっともすぐれているといってよいでしょう。そして特徴的なことに、これらのすぐれた研究がいずれも院生自身の活動と研究から生み出されていることです。教員と院生が一体となって新しいものを創ることに大きな喜びがあります。

■ 専門領域：ケアマネジメント、地域共生社会、家族支援

【プロフィール】国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科博士課程修了。博士(医療福祉学)。実践経験として障害児者福祉、障害者就労支援、高齢者介護及びケアマネジメント、職能活動として日本介護支援専門員協会常任理事等、行政として厚生労働省 介護支援専門官の経験を経て、2018 年より現職。社会福祉士、日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャー、同学会理事。

保健医療福祉分野における次のような人材の育成をめざし、職種を問わず受け入れます

- (1) ケアの現場が抱える問題の改善に主体的に取り組める人
- (2) ケアの向上に向けてリーダーシップが取れる人
- (3) 広い視野を持ち、職種、立場の違いを超えてコミュニケーションがとれる人
- (4) ケアにかかわる教育やケアシステムの開発を担う人

次のような方針で教育・研究指導に当たります

- (1) ケアの現場が抱える問題に即して教育・研究指導を行う。
- (2) 学生の自主性を尊重する。
- (3) さまざまな職種、立場の院生間の討議を通し、相互理解を促進する。

実践家や教育研究者の キャリアアップ

- ◆ 介護の専門職から教育者への道
- ◆ 学会認定「自立支援介護講師」の受験資格取得
- ◆ 日本で唯一、自立支援介護理論を学べる大学院
- ◆ 地域共生社会に対応するケアマネジメント実践者養成

教員紹介



小平 めぐみ 准教授

自立支援介護の現場経験を活かし、介護福祉・高齢者福祉に関する研究を行っています。現在は、アジアで自立支援介護教育を行っています。介護福祉・ケアマネジメントについて広くかつ深く学びたい方はどなたでも歓迎いたします。

■ 専門領域：自立支援介護、認知症、介護福祉、高齢者福祉

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科博士課程修了。博士(医療福祉学)。日本福祉大学福祉経営学部卒業。1997 年～老人保健施設、特別養護老人ホーム等の介護士、居宅支援事業所の介護支援専門員を経て、2011 年4月より現職。介護福祉士、介護支援専門員、日本自立支援介護・パワーリハ学会 共同代表、日本ケアマネジメント学会 代議員。



坂田 佳美 助教

自立支援介護および介護管理を中心とした介護・福祉に関する研究を行っています。働きながらキャリアアップをめざす皆さんと共に学んでいきたいと思います。

■ 専門領域：自立支援介護、介護管理、高齢者介護

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科博士課程満了。博士(介護福祉・ケアマネジメント学)。2001 年～シニアホームのケアワーカー、大手介護会社の教育研修講師等を経て、2017 年4月より現職。介護福祉士、日本自立支援介護・パワーリハ学会認定自立支援介護講師。



鈴木 善雄 助教

多様な経験をお持ちの皆様とケアマネジメントの未来について語り合い、本質を深められることを楽しみにしています。

■ 専門領域：地域リハビリテーション、リハビリテーションとケアマネジメント

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士課程修了。博士(介護福祉・ケアマネジメント学)。2004 年国際医療福祉大学保健学部理学療法学科卒業、松戸市役所に勤務後、2023 年4月より現職。理学療法士。

出願資格

- (1) 大学卒 または
- (2) 保健、医療、福祉に関する国家資格や認定ケアマネジャーの資格を持ち、出願資格審査をパスした方
- (3) 「自立支援介護学領域(1 年修了コース)」については、大学院の定める一般入試の出願資格に加え、以下のいずれかに該当する方
 - ①介護事業の管理運営経験 3 年以上
 - ②介護福祉士としての実務経験 3 年以上(キャリアアップ)
- (4) 「自立支援実践ケアマネジメント学領域(1 年修了コース)」については、大学院の定める一般入試の出願資格に加え、保健医療福祉に関する実務経験原則 3 年以上

※出願前に指導教員との事前面談が必要です。出願資格等の詳細は大学院学生募集要項をご確認ください。

教育内容に関するご相談	【修士課程】介護福祉・ケアマネジメント学領域／自立支援実践ケアマネジメント学領域 【博士課程】ケアマネジメント学領域 石山 麗子 ishiyama.reiko@iuhw.ac.jp	【修士課程】介護福祉・ケアマネジメント学領域／自立支援介護学領域 【博士課程】介護福祉学領域 小平 めぐみ kodaira@iuhw.ac.jp
-------------	--	--

カリキュラム(修士課程)

授業は水曜・土曜に集中して実施します。科目によっては、Web を活用いただくことで職場や自宅からの受講も可能です。

2024 年度開講科目	単位数	標準履修年次							
		介護福祉・ケアマネジメント学領域 (2 年制)				自立支援介護学領域 (1 年制)		自立支援実践ケアマネジメント学領域(1 年制)	
		1 年次		2 年次		1 年次		1 年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門科目									
研究倫理特論	2	○				○		○	
介護福祉・ケアマネジメント学講義【修士】	2	○				○		○	
ケアマネジメント論【修士】	2	○						○	
高齢者介護学【修士】	2		○				○		
介護福祉・ケアマネジメント学演習【修士】	2			○		○		○	
ケア理論演習【修士】	2		○				○		○
自立支援介護学	2	○				○			
介護管理学	2		○				○		
介護保険事業各論	1		○				○		
自立支援型介護計画演習Ⅰ	2					○			
自立支援型介護計画演習Ⅱ	1						○		
自立支援介護学演習	1						○		
ケアマネジメント直接援助・間接援助技術	2							○	
ケアマネジメント実践事例演習	2								○
ケアマネジメント教育・管理論	2		○						○
実習科目									
高齢者介護施設実習Ⅰ・Ⅱ	各 2					○	○		
高齢者介護施設実習演習Ⅲ	2						○		
ケアマネジメント演習Ⅰ・Ⅱ	各 2							○	○
ケアマネジメント実践実習Ⅰ・Ⅱ	各 2								○
研究指導科目									
介護福祉・ケアマネジメント学研究指導Ⅰ～Ⅳ	各 2	○(Ⅰ)	○(Ⅱ)	○(Ⅲ)	○(Ⅳ)				
自立支援介護学課題研究指導Ⅰ・Ⅱ	各 2					○	○		
ケアマネジメント課題研究指導Ⅰ・Ⅱ	各 2							○	○

ケアマネジメント力を鍛える

自立支援介護の実践

組織的な管理・運営

先進的な研究

在学生の声

Q 仕事と勉強をどのように両立していますか？

廣田：授業はほぼオンラインで行われるため、予めシフトを調整し自宅で受講しています。授業によってはオンデマンド(録画)を利用し空いた時間を有効に活用するなどして、勉強時間の確保と仕事との両立を図っています。

後藤：自宅や職場でオンラインとオンデマンド(録画)で受講しています。土曜日や平日夜の授業を多く履修することで両立しています。

Q 大学院の印象は？

廣田：専門的かつ最先端な授業は、私にとって「目から鱗が落ちる」思いでいっぱいです。先生方の授業パフォーマンスが高いため受講の準備に苦労することもありますが、それ以上に楽しく面白いです。

後藤：専門的な学びを得る場所であり、意識の高い大切な仲間と一緒に学ぶ場所です。大学院で学ぶ時間はかけがえのないものです。

Q (大学院に入ってから)自分の気持ちに変化がありましたか？

廣田：大学院に入って介護現場の感覚的な支援方法ではなく、根拠に基づいた理論的方法を示すことで介護という「専門職」である自覚を持って行動できるようになりました。

後藤：研究発表をすることで周囲の環境にも変化がありました。現場のみではなく、広い視野で考えるようになり、社会情勢にも敏感になりました。

Q ぜひ後輩(入学希望者)に伝えたいことは？

廣田：研究については先生方からの温かいご指導をいただけるため、深く楽しい研究が行えます。切磋琢磨しながら高め合っていく仲間との出会いはかけがえのないものです。一緒に面白い人生にしていきましょう。

後藤：産後 2 ヶ月で修士課程に入学し、博士課程に進学いたしました。現在、子 3 人(10 歳・7 歳・2 歳)の子育てと膀胱癌で両側腎臓(要介護 2)の義父の介護をしています。岐阜県在住ですが、子育て介護があっても遠方からでも学びを得ることができます。

修了生の声



宮元 預羽 さん

ケアマネジメント学領域 博士(介護福祉・ケアマネジメント学)
勤務先：沖縄大学人文学部福祉文化学科 助教 資格：社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士

介護支援専門員として従事していた時に持った疑問を探求するため、博士課程の入学を決意しました。3 年間の在籍中は、転職をしたり、教員としての専門分野を介護福祉士養成から社会福祉士養成に変更したり、多忙な 3 年間でした。しかし、コロナ禍の影響でオンデマンド(録画)を活用した授業やゼミが多かったため、受講や研究を継続することができました。研究活動においては、長年、修士論文とは異なるテーマを自己流で研究しておりましたが、博士課程に入学後は、先生方から研究の作法を学び、ゼミ仲間から刺激を受け、査読論文を 2 本提出することができました。ゼミの同期は医療資格者が多かったので、福祉職と異なる視点を学ぶことができました。この度、研究疑問を博士論文としてまとめることが出来ましたが、残された課題は山積みです。引き続き研究を続けていきたいと思います。

*所属等は取材時のものです。